

地域密着型サービス自己評価票

- 指定小規模多機能型居宅介護
(指定介護予防小規模多機能型居宅介護)
- 指定認知症対応型共同生活介護
(指定介護予防認知症対応型共同生活介護)

(よりよい事業所を目指して・・・)

記入年月日	平成	19年	10月	27日
事業所名	グループホーム 安楽樹			
ユニット名	A棟			
事業所番号	2371301090			
記入者名	職名	管理者	氏名	大場 康司
連絡先電話番号	052-739-3722			

自己評価票

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1	<p>地域密着型サービスとしての理念</p> <p>地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている</p>	<p>(やすらぎ)を理念にごく普通の家庭生活を人間の尊厳を重視し自尊心を高める。一日の大切さに感謝して心穏やかに安心して毎日楽しく暮らす。</p> <p>運営者が理念とその解釈を作り上げている</p>	
2	<p>理念の共有と日々の取り組み</p> <p>管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる</p>	<p>全ての職員が介護マニュアルを保持しマニュアルの中の理念にもとずいて日々の介護に生かしています</p>	
3	<p>家族や地域への理念の浸透</p> <p>事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる</p>	<p>玄関やホールに理念を掲示し、家族や地域の方にご理解いただけるよう取り組んでいます。</p>	○
4	<p>隣近所とのつきあい</p> <p>管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている</p>	<p>出勤時、散歩時には近所の方々への挨拶をかわしたり、行事ごとがある時などはお誘いの声掛け等行っています。</p>	○
5	<p>地域とのつきあい</p> <p>事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている</p>	<p>盆踊りや運動会等、地域の方との交流には積極的に参加させて頂いています。運営推進委員会などで地域や行事や要望などの情報交換を行っています。</p>	○

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員 の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮 らしに役立つことがないか話し合い、取り 組んでいる	福祉協議会が開催する福祉祭りに毎年参加し、利 用者とのポスター作成や舞台発表などで地域の人 の高齢者に楽しんでもらえるよう努めています。	○	機会があれば、介護相談や情報提供にも取組ん でいきたい。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び 外部評価を実施する意義を理解し、評価を 活かして具体的な改善に取り組んでいる	外部評価の結果を元に今後の介護に生かし改善に 取り組んでいます。	○	改善事項に関する具体的な実施内容を話し合い、 全ての改善事項に取り組めるようにしたい。
8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの 実際、評価への取り組み状況等について報 告や話し合いを行い、そこの意見をサー ビス向上に活かしている	外部評価の結果や取り組みの資料をを運営推進委 員会で説明し意見をきくことにより、サービ スの向上に生かしています。		
9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議 以外にも行き来する機会をつくり、市町村 とともにサービスの質の向上に取り組んで いる	具体的には行き来する機会がありません。		
10	権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成 年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々 の必要性を関係者と話し合い、必要な人 にはそれらを活用できるよう支援している	利用者の中に地域権利擁護事業や後見人制度を利 用している方がおり、その意味を理解してい ます。	○	今後、勉強会や研修等で学ぶ機会を作りたいとお もいます。
11	虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法 について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や 事業所内で虐待が見過ごされることがない よう注意を払い、防止に努めている	介護マニュアルに明記されており、虐待がないよ う日々心がけています。	○	虐待は絶対にあってはならない事なので、見過ご すことのないように観察・注意を行っていき たい。

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
12	<p>契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>本人の生活状況や家族の不安・疑問点を聞き入れた上で、理解して頂けるように説明する事を心掛けています。</p>	
13	<p>運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>常時スタッフや管理者が利用者の不満を聞いたり、ご家族が来訪された際には家族と利用者だけで話し合える機会を設けています。</p>	<p>○</p> <p>利用者との信頼関係を深めて、なんでも相談して頂けるような関係を作っていきたい。</p>
14	<p>家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている</p>	<p>家族が訪問した際にはスタッフ・管理者が近況の説明をさせて頂いています。利用者が変わりがある場合には、直ちに電話で報告しています。</p>	
15	<p>運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>運営規定に相談窓口の設置を記載したり玄関入り口にご意見箱を設置している。また、ご家族がスタッフに対し気軽に不満を話して頂けるような雰囲気作りに勤めています。</p>	<p>○</p> <p>ご意見箱をさらに活用できるように工夫をしたい。</p>
16	<p>運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	<p>常にスタッフの意見を取り入れて介護を行いやすい環境作りに努め、反映させていると思います。</p>	<p>○</p> <p>管理者は頻繁に現場のスタッフと話すことで相談しやすい関係を築くよう努力している。</p>
17	<p>柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p>	<p>本シフトの前に仮シフトを出しスタッフの勤務調整を行うことによって状況の変化に対応し、シフトやサービスに影響が出ないように配慮しています。</p>	

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
18 職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	日頃からスタッフの不満を聞き入れ働きやすい職場作りに勤めており、離職を考えている職員にもとどまってもらえるように話し合いを行っています。		
5.人材の育成と支援			
19 職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	定期的に勉強会を行ったり外部へ研修に行く機会は設けております。	○	具体的に計画を立てて育成は行っていないので、今後考慮していきたいと考えている。
20 同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	相互訪問は行った実績はないが、研修や交流する機会は設けている。		
21 職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	職員専用の休憩室にベッドを設置したり、有給をとるように勤めている。	○	食事会など職員同士コミュニケーションがとれる機会を増やしたい。
22 向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	運営者は資格取得を推進したり、研修への参加を促している。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)	
安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応				
23	<p>初期に築く本人との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>利用に至るまでの間に利用者の欲求を的確に受け止め不安なく暮らせるように側面から援助し、対等な関係を築き信頼関係を深める努力をしている。</p>	○	<p>本人の不安や希望を把握した上で介護を行う為にも初期の段階で本人と積極的に話していきたい。</p>
24	<p>初期に築く家族との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>利用に至るまでの間に家族の相談を十分に聴く機会を設け、信頼関係を築けるよう努力している。</p>		
25	<p>初期対応の見極めと支援</p> <p>相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている</p>	<p>本人、家族の相談や希望を聞き入れて今後のケアに行かせるように取り組んでいます</p>		
26	<p>馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している</p>	<p>見学時に利用者とお茶を飲んでもらったり楽しくお話することで、雰囲気に馴染めるようにしている。ご家族には認知症の症状・問題を説明し納得した上で利用して頂けるように説明しています。</p>		
27	<p>本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている</p>	<p>誕生日には一緒に喜びを分かち合い、ビデオ観賞して一緒に涙したりする機会がある。また、日頃から利用者の不安・不満を聞き入れながら楽しく過ごしていけるよう努めています。</p>	○	<p>今以上に利用者との関係が深まるように日々努めていきたい。</p>

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
28	本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	家族来訪時には、利用者の日常を伝えている。また、イベントには家族に案内状を出し共に楽しむ機会を築いている。	○	誕生日会・バーベキュー・流しそうめん・クリスマス会等には家族も参加され楽しめました。
29	本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	面会が遠のいてる家族には、利用者の現状を説明し本人と外出する機会を作ってもらえるように支援している。	○	利用者と家族との関係をより良くする為にも、積極的に外出機会を増やして頂いたり、イベントに参加してもらえるように促していきたい。
30	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族の協力で馴染みの方の面会も実現・継続しており、今後も途切れることがないよう支援していきたい。	○	ドライブついでに利用者馴染みの場所を通り、懐かしむ場面もありました。
31	利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	極力ホールで過ごすよう声掛けすることで孤立しないよう働きかけたり、レクリエーション・イベントを実施する事で利用者同士が親密な関係になるように支援している。	○	利用者同士の人間関係を理解し、仲良く付き合っていけるように支援していきたい。
32	関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	特別に機会を設けたり取り組みは行っていません。		継続した関わりを必要としている家族がいらっしゃる場合には取り組みを考えて生きたいと思っています。

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント			
1. 一人ひとりの把握			
33	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>日常の会話の中から一人ひとりのニーズを聞き取り困難な場合は過去の生活習慣を参考にして検討しています。</p>	
34	<p>これまでの暮らしの把握</p> <p>一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている</p>	<p>介護記録・アセスメント・サマリ・他の書類をまとめたファイルを職員がいつでも確認できるよう事務所に保管されている。</p>	○ アセスメント、サマリを元に利用者一人ひとりの生活歴を把握し介護の質の向上に努めたい。
35	<p>暮らしの現状の把握</p> <p>一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている</p>	<p>申し送りノートを活用することで利用者の状態を把握して、カンファレンス等で各利用者の現状を話し合っている。</p>	○ 介護記録にモニタリングの欄を取り入れて目標達成を把握出来るように実施している。
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し			
36	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>カンファレンスでサービス計画の見直し・作成を行う。作成した計画とサービスの要点は家族に郵便で送り確認と了承のサインをもらっています。</p>	○ 介護記録様式に新たに長期目標・短期目標を記載しモニタリング項目を追加し経過を記録するようにしました。
37	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p>対応できないような変化が生じた場合にはカンファレンス以前にスタッフで話し合いをし、ご家族と相談した上で新たに計画を立てるようにしています。</p>	

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
38 個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	口頭や申し送りノートにて情報を共有することにより、常に利用者の状態を把握出来るようにしています。またモニタリングの欄に結果、経過を記載し見直しに役立つ仕組みを取り入れている。	○	日頃から利用者の観察を怠らず、多少の変化にもすぐに気づくことが出来るような介護を目指したい。
3. 多機能性を活かした柔軟な支援			
39 事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	現在は共同生活の機能しか備えていないのでその範囲内で支援している。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働			
40 地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	消防署からの防災訓練やボランティア来訪（落語研究会、フラダンス）保育所との交流、福祉協議会に参加をしている。	○	他の機関との連携は今以上に深めて取組んで生きたいと考えています。
41 他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	2ヶ月に1回訪問理美容サービスや週2回リハビリマッサージを利用している方もいます。また特別養護老人ホームのケアマネジャー・家族と連携をとりながら今後のサービス利用を支援した。		
42 地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	現在は協働していません。	○	今後、協同を考えていきたい。

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
43 かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	家族の希望でリハビリを受けている利用者がいらっしゃいます。また、2週間に1度かかりつけ医の往診により利用者の情報を共有して適切な医療が受けられるように支援している。	○	今の時点でかかりつけ医の希望はないですが、今後訴えがあり場合には検討したい。
44 認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	今の時点では認知症の専門医との連携はありません。利用者には毎日楽しく過ごして頂き少しでも進行が遅れるように支援しております。	○	今後、機会があれば認知症専門医との連携を計りたい。
45 看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	毎週1回訪問看護師が来訪し利用者の健康確認や訴えを聞いたり、ケアの相談に乗って頂いています。緊急時にも連絡しすぐに対応出来るように連携を図っています。	○	看護師との情報交換やアドバイスを介護に生かしている。
46 早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	利用者が入院した場合には、スタッフが定期的に病院を訪れ病院関係者との情報交換や相談をして、少しでも早期に退院出来るように努めています。		
47 重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	利用者に変化が見られた場合には家族の方に状況を伝え、重度化したり問題が起きたときに速やかに対処できるよう家族・医療機関との連携を図っている。	○	医療関係と重度化したときの対応・アドバイスを受け介護に取り入れている。
48 重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	重度・終末期の利用者は「事業所での対応が出来るか？」を見極めて、緊急時にも速やかに対処できるように医療機関との連携を取り、スタッフも利用者のADLに全力で支援している。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
49	住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	家族等と十分に話し合った上で別の居所へ移り住んで頂いており、今までの受け入れもスムーズに行われています。		
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
1. その人らしい暮らしの支援				
(1) 一人ひとりの尊重				
50	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	日頃から傾聴する姿勢を持って言葉使いにも気をつけています。情報についてもプライバシー保護に基づいて外部に漏れることのないように心掛けています。		常に人生の先輩であるという認識の元でプライバシーを傷つけることが絶対にならないような接し方や声掛けをしています。
51	利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	利用者一人ひとりの意見を聞き入れ多数決などで決め計画を立てた上で、みなさんに楽しんでもらえるように支援しています。	○	利用者の希望を聞き検討したうえでさまざまなイベントを行っています。(水族館、小原村など)
52	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	日々の生活の中で利用者の希望を聞き入れて過ごしてもらえようように努力しています。	○	状況によっては希望に添えない場合もあるが、利用者の要望で散歩やお出かけを取り入れている。
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援				
53	身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	要望があれば、スタッフが髪染めを手伝いもしています。現時点では本人希望の理美容サービスを利用している方はいらっしゃいません。	○	今後訴えがあった場合には検討したい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者一人ひとりが出来ることを把握し、野菜の皮むき、台拭き、箸配り、洗い物、片付け、皿拭きなどをみんなで分担して行っています。		
55	本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	健康維持と防火の為、運営者の方針によりタバコは禁止させて頂いています。お酒はイベントの時に飲まれています。		喫茶店に出掛けたり、外出先でおやつを買って食べたりして楽しんでもらっている。
56	気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	利用者の排泄パターンを把握し決めた時間に誘導を行っている。また、失敗を責めず利用者の動きに注意して見守り・声掛けにて誘導している。		声掛け誘導により、リハパン内での失禁が減ってきています。
57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	希望に応じ曜日を問わず入浴できるよう支援し、1番風呂は順番を変えながら入って頂いている。夏場はシャワー浴を取り入れて利用者がいつでも汗を流せるようにしています。		
58	安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	昼夜逆転のない程度で、食後や疲れたときなど居室で休んで頂いています。	○	お出かけ後に疲れた様子の利用者には居室で休むように促している。
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	無理のない程度で家事をを手伝ってもらったり散歩、レクリエーションへの参加を促し利用者が退屈しないように支援している。		カラオケBOXに数回出掛けたときには、全員が生き生きとして大変満足されていました。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
60	お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	認知症により個々での管理が困難な状況で所持に関しては課題となっていますが、訴えがある場合にはスタッフ付き添いにて買い物に行く機会を作っています。	○	お金の管理が可能と判断できる方には現金の所持を出来るように支援したい。
61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	散歩や買い物に付き添って頂いたり、ランチやコーヒーを飲みに出掛けたりなど利用者が充実した生活が送れるように支援しています。		
62	普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	スタッフで話し合い計画を立てた上で、外出の機会を設けています。(花見、水族館、小原村、緑地公園、定光寺施設での食事会)など		四季折々に花等観賞に出掛けることを検討しています。
63	電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	申し入れがある場合には子機にてご家族や友人などとお話できるように支援しています。		
64	家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	利用者の家族等の来訪時には気軽に話しかけて頂けるように笑顔で接しています。利用者との空間も大切に、ゆっくり過ごしてもらえるように居室の清潔にも心掛けています。	○	ご家族来訪時はお茶を出しゆっくり過ごして頂いています。
(4)安心と安全を支える支援				
65	身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	現在は身体拘束の必要な方がいないので行っておりません。今後も身体拘束をしない介護に努めていきます。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
66 鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	拘束防止委員会会議にて利用者安全の為、玄関や非常口に鍵を付けることにする。ただし利用者が落ち着いて生活できるように支援し事故の危険性がなくなるよう努力し、危険性がなくなり次第、施錠はなくすこととする。	○	利用者が早く落ち着いて頂けるように支援していきたい。
67 利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	死角になる場所には鏡を付け利用者の様子を把握し、常に人数確認を行い所在・安全に気を配っています。	○	居室へ入るときはノックして入るように心掛けている。
68 注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	注意の必要な物品は本人の了承のもと、預からせて頂いています。使用中は見守りし危険のないようにしています。	○	危険がないと判断できる場合、状況に応じて本人で管理するように考えていきたい。
69 事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	いつでも事故は起こりうるという事を念頭に置き、利用者の状態を把握した上で未然に事故を防げるように見守り誘導を行っています。		
70 急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	応急訓練は社員研修にて実施しましたが定期的には行っていません。		今後、応急訓練を定期的に行うように検討していきたい。
71 災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	毎年消防署による防災訓練を実施しており緊急時の避難経路・対応の指導を受けている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
72	リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている	ご家族に認知症の問題行動・リスクについて事前に説明し、ご理解頂けるように努めています。その上で利用者が抑圧感なく伸び伸びとした生活が送れるように話し合い、支援しています。		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	口頭や申し送りノートを使用してスタッフ間の連携をとり、利用者に異常があった場合にも早急に対応出来るように努めています。	○	緊急時対応マニュアルを作成し速やかな対応に心掛けています。
74	服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	主治医に一人ひとりの症状を伝え、相談のうえで服薬されています。他の医療機関にて薬が処方された際には、それを伝え安全に服薬出来るように配慮しています。	○	毎回の処方箋をファイルしていつでも確認できるようにしています。
75	便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	排便表を付けて利用者の排便周期を把握したり、毎朝ラジオ体操を取り入れ体を動かしてもらう。本人の訴えがある場合にはラキソベロンで対応しています。		食物繊維を多く含んだ食材を沢山取り入れた食事や多くの野菜を摂取出来るようなメニュー作りに取り組みたい。
76	口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	毎食後に声掛け誘導をして口腔ケアを実施している。入れ歯を使用の方は夕食後に預かり消毒させて頂いています。	○	歯科衛生士の指導を取り入れ一人ひとりの支援に取り組んでいる。
77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者一人ひとりの状態に合わせて食事の量、塩分などを調整して配膳を行う。水分量については、おやつ時のお茶や毎食時に汁物を付ける事によって確保しています。		低カロリーで栄養価の高い献立を学び一人ひとりに楽しんでいただける食卓にしていきたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
78	感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	食事前の手洗いや外出後の手洗いうがいを徹底しています。またホールに保管してある衛星マニュアルにもとずいて台所、手すりなどの消毒(エタノール、次亜塩素酸系など)をして感染症の予防に取り組んでいます。		年に1回インフルエンザの予防接種を行う。
79	食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	調理器具、台所周りの消毒を徹底しています。作ったものは2時間以内に食べて頂きそれ以後は破する、また夏場に生野菜を出す際には湯煎して安全に食べてもらえるように心掛けています。	○	まな板・包丁は使用后必ず消毒 ふきん・台所用手拭きは(朝・昼・夕)消毒
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	玄関までは車椅子でも移動出来るようにスロープになっており手すりも設置しています。玄関は施錠することなく開いているので来訪者は気兼ねなく出入りされています。	○	玄関前に花壇を作り定期的に建物周りの掃除を行っている。
81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	廊下に利用者の描いた絵を飾り、ホールには利用者の写真を貼ったり季節の花を飾る事によって目で楽しみ、季節感を感じてもらえるように工夫しています。	○	利用者と生け花をしたり、3ヶ月に1度くらいの割合で季節感のあるカレンダー作成をしている。
82	共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	廊下に設置した長椅子やホールでは気の合った利用者同士で楽しくお話をしたり好きな事をして楽しんで頂いています。共用空間には独りになる場所がない為、個々の居室を利用して頂いています。	○	居室に籠りがちな利用者は、声掛けをしてなるべくホールで過ごして頂く様にしています。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好み のものを活かして、本人が居心地よく過 せるような工夫をしている	布団、タンス等以前より使用していた物を持ち込 んで頂いたり、利用者本人との相談の上で必要な ものを一緒に買いに出掛けたりすることにより、 過ごしやすい部屋作りを支援しています。	○	入居時にはタンスやベッドなどを利用者の自由に 配置を考えて、過ごしやすい空間創りをして頂い ている。
84	換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のだよみがないよ う換気に努め、温度調節は、外気温と大き な差がないよう配慮し、利用者の状況に応 じてこまめに行っている	利用者の要望や状況に応じ、冷暖房にて快適な温 度を保っています。またホール等の空気の入れ換 えをこまめにし、利用者にも居室の換気を促して 過ごしやすい環境作りに取り組んでいます。	○	冬場は電気毛布を使用している。
85	身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活か して、安全かつできるだけ自立した生活が 送れるように工夫している	床全体をバリアフリーにし、廊下、トイレ、浴室 には手すりを設置しています。また一部の利用者 は安全の為にベット足を取り除き床間を低くして 安全を確保しています。	○	利用者居室・風呂・トイレには引き戸・アコー ディオンドアを使用している。
86	わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱 や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工 夫している	個々の利用者がどこまで分かるかという事を把握 しており、少しでも自立した生活が送れるように 支援させて頂いています。	○	洋服・私物に名前を記入したり居室にネームプ レートを取り付けている。
87	建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽し んだり、活動できるように活かしている	前庭を利用し食事やお茶を飲んだり、イベントで は流しそうめんやバーベキューなどを実施し利用 者に楽しんでいただいています。	○	施設前に裏山があり、春には竹の子掘りを毎年 行っています。

( 部分は外部評価との共通評価項目です)

. サービスの成果に関する項目		
項 目		取 り 組 み の 成 果 (該 当 する 箇 所 を 印 で 囲 む こ と)
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○ ほぼ全ての利用者の 利用者の2/3くらいの 利用者の1/3くらいの ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○ 毎日ある 数日に1回程度ある たまにある ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○ ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○ ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○ ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○ ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○ ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○ ほぼ全ての家族と 家族の2/3くらいと 家族の1/3くらいと ほとんどできていない
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○ ほぼ毎日のように 数日に1回程度 たまに ほとんどない

項 目		取 り 組 み の 成 果 (該 当 する 箇 所 を 印 で 囲 む こ と)
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○ 大いに増えている ○ 少しずつ増えている ○ あまり増えていない ○ 全くいない
98	職員は、生き活きと働けている	○ ほぼ全ての職員が ○ 職員の2/3くらいが ○ 職員の1/3くらいが ○ ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ ほぼ全ての利用者が ○ 利用者の2/3くらいが ○ 利用者の1/3くらいが ○ ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ ほぼ全ての家族等が ○ 家族等の2/3くらいが ○ 家族等の1/3くらいが ○ ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

- ・施設周りに自然が多く柿や竹の子をを取ったり前庭でバーベキュー・流しそうめんなどを行っています。
- ・年間行事やボランティアの訪問、利用者様の希望を聞き様々なイベントにて楽しんで頂いている。
- ・近くの保育園との交流や地元の夏祭り・福祉祭りへの参加など地域との交流を徐々に深めています。
- ・利用者様が充実した生活を送れるように日々サービスの向上に努めています。